

## 食料の確保には農地の保全が不可欠

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと思います。

「八方原の環境を守る会」は発足して早くも2度目のお正月を迎えることとなりました。平素からこの活動に積極的なご参加、協力を賜りますことに厚く御礼申し上げます。

今日世界を震撼させている金融危機の影響は、我が国にも大きな打撃を与えました。好調だった製造業に不況の荒波がどっと押し寄せ、各地で失業者が続出し、新年の挨拶に戸惑う状況と云っても過言ではないようです。

このことは、連日新聞、テレビ等で大きく取り上げられていますが、私たちにとってさらに大きな関心事は、「食料の確保」という課題が依然として取り残されていることです。

バイオ燃料化による穀物価格の高騰、恒常的な世界人口の増加、また地球温暖化による土地の荒廃など、食料自給率が39%（平成18年供給熱量総合食料自給率 農水省HP）という我が国にとって、生産出荷国の都合で我が国への取引窓口を一ひねりされると、ひとたまりもありません。食料自給率の向上、さらには農地の荒廃化の防止として「農地・水・環境向上対策」はまさに当を得た取り組みとして各地で評価されているようです。

今年も農地周辺の草刈り、用排水路の清掃、また施設の改良などの活動を通じて、農地を中心にした景観の維持管理に少しでもお手伝いできればと思っていますので、関係者各位の一層のご協力を、ご鞭撻をお願い申し上げます。

また、この広報紙「やかたばら環境通信」は今回でちょうど20号目の発行となりました。おかげさまで「次回の発行を楽しみにしている」との声も聞き、大変勇気づけられております。今年も係員がカメラ片手に皆さんの近くに取材に伺うこともあろうかと思いますが、どうか暖かく迎えてくださるようお願いいたします。

終わりに、会員各位の益々のご発展とご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶といたします。

八方原の環境を守る会 代表 原田憲一郎



維新記念公園の夜明け 2008年元旦



毎土曜日の朝市は盛況が続く

## ビジネスとしての農業生産の可能性

12月5日にNHK広島放送局が制作した「ふるさと発」〜もつと食べたい地元の野菜〜という番組をご覧になった方も少なくないと思います。

番組の中で、島根県雲南市のJAが運営している朝市の様子を特集していました。2400軒の小規模農家を組織化して14の直売所と3つのスーパーで野菜を販売していました。

消費者が買いたいもの、売れるものを出荷するという姿勢が徹底していました。価格情報のきめ細かい提供で、生産者の意欲を駆り立てます。

目標は出荷額10億円。今現在は6億の出荷額だそうです。

# 点検と訓練は怠りなく

八方原消防組は12月20日、今年最後の点検と訓練を行いました。点検では各消火栓のバルブ、消防器具庫の装備など万が一に備えての点検を慎重に行いました。今年には火事などで器具の使用などはありませんでしたが、定期的な点検は欠かせません。

訓練では各自が消防ポンプを操作しました。吸水管の装着、エンジンの始動、真空引き、放水という一連の操作は実際に扱っておかないと、いざという



詳細な資料を前に慎重な審議

# 生産農家の総決算は「豊作」

八方原営農生産組合では、本年の生産活動を締めくくる総会を12月2日、八方原公民館で開きました。

総会では農業生産者の高齢化や後継者不足など、厳しい問題が報告されました。こうした問題はこの地域だけではなく、日本中どこも同じような事情があるようです。

生産量は結果的には豊作となりました。昨年比では約14%もの大幅な収量アップと高い品質の米が多く算出されたことを数字が示しています。ことに「日本晴」種については非常に出来が

良く、上級米である1等米の比率が今年の70%から本年は97%と極めて高品質になっていることがうかがえます。

天候などに大きく左右される農作ですが、それ以上に各生産者の水稲生育管理が行き届いたことが大きな要因ではないでしょうか。

来賓として出席したJA山口中央小郡支所長重国誠司氏は挨拶の中で「農地・水・環境保全向上対策への取り組みを高く評価している」と述べました。対外的にも重要な活動であることがうかがえました。

ときに、正確な操作が出来ないかもしれません。

## 器具庫の装備は全て点検

国重消防組頭から新年の消防組出初め式についての説明がありました。1月11日の午後2時から新町の消防訓練場で行われます。昨年までとは異なり、全ての消防組が放水による標的落としに参加することになっています。従来より使用ホースも1本長くなり、80メートルのホースを使用しての放水です。

放水の後には「もちまき」もあります。みなさんでご参加ください。



## 「いきものたちの哀歌」萩焼作家のCD

ここ八方原出身の萩焼陶芸作家原田隆峰氏が作った詩に、教育テレビで活躍している「ロバの音楽座」の主宰者、また古楽器演奏家として知られている上野哲生さんが曲をつけ、自らも演奏しているCDが出来上がりました。「いきものたちの哀歌」というタイトルです。

自然のアンバランスを危惧する隆峰氏が皮肉たっぷりに現代社会を嘆きます。曲目も「牛」「雀」「猪」「蚯蚓」など身近にある普通の風景の中の一場面を「おーいちよつとちよつと」で始まる山口の言葉で語りかけます。

興味のある方は原田茂樹までお申し出ください。一部1000円で販売しております。

